

令和6年度
事業報告書

社会福祉法人 宝寿会

事業報告書

令和6年度
法人本部

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業報告 総括

令和 6 年度は、団塊の世代が後期高齢者となる「2025 年問題」を目前に控え、医療・介護需要の増大と生産年齢人口の減少に伴う社会保障費の負担増や人材不足といった構造的な課題が顕在化する中で始まりました。このような厳しい社会福祉情勢のもと、社会福祉法人宝寿会は法人理念に基づき質の高いサービス提供に努めるとともに、喫緊の課題である「経営の安定」を事業目標に掲げ、予算管理強化、収支バランス確保、収入源多様化、支出見直し、働きやすい環境づくりやキャリアパス構築等に取り組ましました。

しかし、本年度は特別養護老人ホーム四季の郷および地域密着型特養漫遊の郷において、滋賀県・近江八幡市による特別監査を受け、新規利用者の半年間（令和 6 年 5 月 1 日～10 月 31 日）受け入れ停止という行政処分に至る事態となりました。処分の主な事由は、四季の郷での不当な身体拘束（虐待）の疑い、両施設における看護体制加算Ⅰおよび安全管理体制加算の算定要件不備による不正請求、薬機法違反（薬剤の目的外授与）、四季の郷短期入所生活介護事業所での介護保険法違反。これらの指摘は、過去の監査では特段の指摘を受けなかったものの、職員の経験不足等により潜在していた施設管理上の課題が顕在化した結果であると認識しております。

法人はこの事態を極めて重く受け止め、信頼回復に努めております。速やかに再発防止委員会を設置し、原因究明と改善策を推進するとともに、法人本部に法令遵守部門を設置するなど内部監理体制を強化する方針を決定しました。内部監査委員会も設置され、再発防止策の実施状況等の監査を実施しています。令和 6 年 11 月から令和 7 年 3 月までの法人全体の内部監査では、重大な不備等は確認されておられません。運営責任として、理事長および業務執行理事は報酬の一部を自主的に減額する措置を講じました。

事業運営においては、令和 5 年 12 月開設の定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所「夢の里 定期巡回」を推進し在宅ニーズに対応しています。人材確保では、53 名の新規入職者（うち 6 名が外国人職員）に対し 73 名の退職者があり、特に監査対象施設からの退職者が 33%を占めました。定着率向上のため労働環境改善やキャリアパス明確化に取り組んでいます。職員研修や BCP 策定・訓練も継続しています。施設環境では、うぐいす荘のトイレ改修 および LED 改修工事を計画・実施しました。その他、株式会社ライコウとの訴訟が継続中です。

令和 6 年度末の純資産額は 3,528,693,718 円となり、前年度末の 3,698,199,190 円から 169,505,472 円の減額となりました。主な要因としては、新規事業の初期投資や施設維持費用の増加が挙げられます。引き続き、財務状況の健全化を図りながら、持続可能な運営を目指してまいります。

令和 6 年度も地域社会に貢献するため、多岐にわたる事業を展開してまいりました。今後も課題に対し真摯に取り組み、利用者の皆様に安心してご利用いただける福祉サービスを提供してまいります。

令和 6 年度 評議員会の開催状況

開催日・議案内容等	参加人員
第 1 回 評議員会 令和 6 年 4 月 12 日 (議案審議) 第 1 号議案 特別養護老人ホーム 四季の郷・地域密着型特養 漫遊の郷における 滋賀県・近江八幡市の行政処分について	評議員 5 名 監 事 1 名
第 2 回 評議員会 令和 6 年 6 月 27 日 (議案審議) 第 1 号議案 令和 5 年度 宝寿会各事業所 事業報告の承認について 第 2 号議案 令和 5 年度 決算(計算書類及び財産目録)の承認について 第 3 号議案 就業規則(案)・契約職員就業規則(案)・服務規程(案)の改廃の承認 について 第 4 号議案 給与規程(案)・契約職員給与規程(案)の変更の承認について 第 5 号議案 経理規程(案)の変更の承認について 第 6 号議案 法令遵守責任者の変更の承認について 報告事項 再発防止委員会からの経過報告について	評議員 7 名 監 事 0 名
第 3 回 評議員会 令和 6 年 10 月 15 日 (議案審議) 第 1 号議案 令和 6 年度 第 1 次補正予算について 第 2 号議案 定款(案)の一部変更について 第 3 号議案 理事の選任について 第 4 号議案 内部監理体制の整備について 報告事項 評議員について 特別養護老人ホーム うぐいす荘 トイレ改修工事について 再発防止委員会からの経過報告について 理事長及び業務執行理事の職務の執行の状況の報告について	評議員 7 名 監 事 0 名
第 3 回 評議員会 令和 7 年 3 月 28 日 (議案審議) 第 1 号議案 うぐいす荘拠点 LED 改修工事に伴う契約について 第 2 号議案 令和 6 年度 収支第 2 次補正予算について 第 3 号議案 令和 7 年度 宝寿会各施設 事業計画及び収支予算について 第 4 号議案 役員等報酬・退職慰労金規程の一部変更について 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について 四季の郷・漫遊の郷 再発防止委員会報告事項について 株式会社ライコウとの業務委託報酬金請求事件及び損害賠償請求事件 の経過について	評議員 6 名 監 事 1 名

令和 6 年度 理事会の開催状況

開催日・議案内容等	参加人員
第 1 回 理事会 令和 6 年 4 月 12 日 (議案審議) 第 1 号議案 特別養護老人ホーム 四季の郷・地域密着型特養 漫遊の郷における 滋賀県・近江八幡市の行政処分について	理事 5 名 監事 1 名
第 2 回 理事会 令和 6 年 6 月 12 日 (議案審議) 第 1 号議案 令和 5 年度 宝寿会各事業所 事業報告の承認について 第 2 号議案 令和 5 年度決算(計算書類及び財産目録)の承認について 第 3 号議案 就業規則ほか諸規程の改廃の承認について 第 4 号議案 給与規程等の変更の承認について 第 5 号議案 経理規程の変更の承認について 第 6 号議案 法令遵守責任者の変更の承認について 第 7 号議案 令和 6 年度 定時評議員会の招集について 報告事項 再発防止委員会経過報告	理事 6 名 監事 2 名
第 3 回 理事会 令和 6 年 10 月 4 日 (議案審議) 第 1 号議案 令和 6 年度 第 1 次補正予算について 第 2 号議案 定款(案)の一部変更について 第 3 号議案 理事候補者の評議員会への提出議案について 第 4 号議案 評議員候補者の推薦者について 第 5 号議案 特別養護老人ホーム うぐいす荘トイレ改修工事について 第 6 号議案 内部監理体制の整備について 第 7 号議案 令和 6 年度 第 3 回 評議員会について 報告事項 再発防止委員会経過報告・ 理事長および業務執行理事の職務執行状況報告	理事 6 名 監事 2 名
第 4 回 理事会 令和 6 年 10 月 22 日 (議案審議) 第 1 号議案 特別養護老人ホーム うぐいす荘トイレ改修工事 入札予定価格の設定について	理事 6 名 監事 1 名
第 5 回 理事会 令和 6 年 10 月 22 日 (議案審議) 第 1 号議案 特別養護老人ホーム うぐいす荘トイレ改修工事に伴う契約について	理事 6 名 監事 1 名

開催日・議案内容等	参加人員
第 6 回 理事会 令和 7 年 3 月 3 日 (議案審議) 第 1 号議案 うぐいす荘 LED 改修工事 仕様書の承認について 第 2 号議案 うぐいす荘 LED 改修工事 設計業務委託先の選定について 第 3 号議案 うぐいす荘 LED 改修工事 施工業者の選定について	理事 6 名 監事 2 名 書面表決
第 7 回 理事会 令和 7 年 3 月 19 日 (議案審議) 第 1 号議案 特別養護老人ホーム 四季の郷の及び地域密着型特養 漫遊の郷における滋賀県、近江八幡市による特別監査について	理事 6 名 監事 2 名
第 8 回 理事会 令和 7 年 3 月 19 日 (議案審議) 第 1 号議案 うぐいす荘拠点 LED 改修工事に伴う契約について 第 2 号議案 令和 6 年度 収支第 2 次補正予算について 第 3 号議案 令和 7 年度 宝寿会各施設 事業計画及び収支予算について 第 4 号議案 役員等報酬・退職慰労金規程の一部変更について 第 5 号議案 令和 6 年度 第 4 回 評議員会の招集について 報告事項 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について 四季の郷・漫遊の郷 再発防止委員会報告事項について 株式会社ライコウとの業務委託報酬金請求事件及び損害賠償請求事件の経過について	理事 6 名 監事 2 名

監事監査の開催状況

開催日	議案内容他	参加者
令 6 年 6 月 4 日	監事監査	榊監事 中村監事

評議員選任・解任委員会の開催状況

開催日	議案内容他	参加者
令 6 年 10 月 15 日	評議員の選任について	榊監事 園田外部委員 内木場事務局

令和 6 年度 契約・購入・修繕等について（50 万円以上）

【特別養護老人ホーム うぐいす荘】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
4 月 1 日	実務者研修(8 名)	ハッピーアンドスマイル(株)	1,100,000
10 月 7 日	入所者健康診断	カワイ健診クリニック	699,720
10 月 17 日	草刈り	(株)プロスペリティ	528,000
2 月 16 日	複合機リース 5 年間	コニカミノルタジャパン(株)	800,000

【認知症対応型共同生活介護 グループホーム ゆうゆう】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
4 月 9 日	スプリンクラー設備、改修工事	(株)ライフシャイン	1,190,000
12 月 30 日	デジタルフルカラー複合機	コニカミノルタジャパン(株)	580,000

【地域密着型特別養護老人ホーム うぐいす荘】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
11 月 6 日	ラインバス故障による 浴槽 ストレッチャーの新規購入	オージー技研	7,000,000
2 月 3 日	汚物処理機故障による新規購入	(株)アサヒ製作所	990,000
2 月 3 日	エアコン 室外機インバーター圧縮機不良	ヤマモト電気	729,322

【特別養護老人ホーム 夢の里】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
6 月 10 日	ポータブル蓄電池(2 台)	(有)コスモ	2,640,000
7 月 22 日	筋野寮給湯器交換	(株)プロスペリティ	514,800
7 月 25 日	日産サクラ	SST	2,850,740
1 月 22 日	Wi-Fi 設備一式	コニカミノルタ(株)	8,678,450
1 月 22 日	NEOS+Care 関係	コニカミノルタ(株)	5,940,000
1 月 22 日	眠り SCAN	(有)インレット	1,072,500
3 月 17 日	厨房マルチエアコン入替	ヤマモト電気	530,000

【地域密着型特別養護老人ホーム 夢の里】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
1 月 22 日	Wi-Fi 設備一式	コニカミノルタ	2,302,300
1 月 22 日	眠り SCAN	(有)インレット	3,960,000

【ケアハウス 青山苑】

日 付	内 容	相 手 方	金 額
6 月 10 日	ポータブル蓄電池	(有)コスモ	2,640,000
7 月 1 日	防水工事	(株)プロスペリティ	2,882,000
7 月 29 日	日産サクラ電気自動車	SST	2,882,000
7 月 29 日	電気自動車充電設備	SST	638,000

事業報告書

令和6年度
特別養護老人ホーム
うぐいす荘

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標 : 『利益を上げる』

(良かった点)

協力医療機関連携加算を新たに取得し、毎月の会議を通じて医療機関との連携強化を図りました。これにより、新規入所が円滑になり、入退院の相談もしやすくなりました。また、LINE WORKS の活用で多言語共有が可能となり、会議内容の周知徹底と職員間の連携向上につながりました。さらに、利用者の健康観察を継続的に行い、体調変化の早期発見と早期受診が実現できました。

(悪かった点)

入院率が全体の 5%を占めたことで稼働率の向上が困難でした。施設内の改修工事や感染症の影響で新規入所を見送る場面があり、空床が発生した要因となりました。さらに、職員不足と離職が続き、新人職員へのサポート体制が不十分でした。入退院を繰り返し、長期入院や病院での退所となる利用者も多く、継続的な利用に課題が残りました。

稼働状況 : 稼働率 6 年度 = 92.7%・5 年度 = 94.5%・4 年度 = 86.8%

令和 6 年度の年間稼働率は 92.0%で、前年(94.5%)より微減しました。入院率は 5%、空床率は 3%。入院者数は 29 名、平均入院期間は 23 日でした。退所に伴う空床は年間 23 床あり、そのうち 1 週間以内に再入所できたのは 8 例でした。平均空床期間は 25 日であり、入院中の空床活用や新規入所までの日数短縮が今後の課題です。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
7 月 8 日	● 転倒により右上腕骨を骨折。	1. 職員が事故状況を確認し、看護職員に報告。 2. 長男に電話で状況を説明し、お詫び。 3. 職員が付き添って病院を受診。右上腕骨骨折と診断される。
8 月 17 日	● 転倒により右上腕骨近位端を骨折。	1. 職員が事故状況を確認し、看護職員に報告。 2. 長男に電話で状況を報告し、お詫び。 3. 当初は目立った異常が見られなかったため、安静にて様子観察。 4. 翌日、疼痛の訴えがあり対応を検討。 5. 8 月 20 日に病院を受診し、右上腕骨近位端骨折と診断される。
11 月 12 日	● 入浴中の打撲により裂傷を負う。	1. 職員が事故状況を確認し、看護職員に報告。 2. ご家族に連絡し、状況説明とお詫び。 3. 病院を受診し、縫合等の処置を受ける。

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
11 月 19 日 ～ 12 月 5 日	● インフルエンザウイルス感染症 ● コロナウイルス感染症	1. インフルエンザ陽性者が出た時点で、中播磨健康福祉事務所および神河町健康福祉課に報告。 2. 健康福祉事務所へはその都度、積極的疫学調査票を提出。 3. 感染が拡大し、終息までに利用者 9 名・職員 3 名がインフルエンザを発症。 4. 同期間中、職員 2 名のコロナウイルス感染を確認。他職員や利用者への感染拡大はなし。 5. 終息後、神河町へ事故報告書を提出。
2 月 26 日	● 誤嚥・窒息	1. 誤嚥を確認後、施設で直ちに応急処置を実施。 2. 同時に救急車を要請し、搬送対応。 3. ご家族に状況を連絡し、説明を行う。 4. 病院受診後、死亡診断される。
2 月 22 日 ～ 3 月 12 日	● コロナウイルス感染症	1. 初発の利用者感染を確認後、感染が拡大。終息までに利用者 27 名、職員 18 名が発症。 2. 発症確認後、相談員よりご家族へ状況説明の連絡を実施。 3. 看護職員が中播磨健康福祉事務所および神河町健康福祉課へ報告。 4. 健康福祉事務所には毎日、積極的疫学調査票を提出。 5. 終息後、神河町に事故報告書を提出。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
5 月 13 日	● 介護保険更新の結果が家族に届かず、施設に直接送付されたことに対し、家族より町へ苦情申告。	1. 家族に対し謝罪を行う。 2. 町との間で事実関係を確認。 3. 今後は、住所地不在であっても介護保険関連の郵送物は自宅宛に送付するよう町と申し合わせ。 4. 介護保険証のコピーは施設で預かり、原本は家族が所持することで対応。
11 月 16 日	● 職員の不注意により眼鏡を破損。修理不要と発言されたことに対し、家族より苦情申告。	1. 家族に謝罪し、状況の説明を行う。 2. 職員に対し、言動への注意喚起と指導を実施。 3. 家族に眼鏡の購入店舗を確認し、修理・弁償対応することを伝える。 4. 修理完了後、家族に報告し対応を完了。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
看 護 師							1			1		
介 護 員		1	1		2	1		2	1		5	3
調 理 員	1	1					2			3	1	
そ の 他	1						1			2		
合 計	2	2	1		2	1	4	2	1	6	6	3

採用の状況

令和6年度

区 分	人数	区 分	人数	区 分	人数
ハローワーク		SMS		職員紹介	5
求 人 紙		紹介会社	1	その他	

合計	6
----	---

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 3		12	12	22%
要 介 護 4	3	20	23	43%
要 介 護 5	3	16	19	35%
合 計	6	48	54	100%
平 均	4.5	4.1	4.1	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 3	9	8	9	8	8	9	9	9	11	13	13	12	118
要 介 護 4	24	25	26	27	27	25	25	23	23	23	23	24	295
要 介 護 5	25	25	26	23	23	25	23	23	21	21	20	19	274
合 計	58	58	61	58	58	59	57	55	55	57	56	55	687

月間利用実績(延べ人数)

定員 58 (空床ショート含む)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	1,671	1,712	1,640	1,623	1,624	1,603	1,632	1,523	1,578	1,670	1,576	1,631	19,483
稼 働 率	96.0%	95.2%	94.3%	90.3%	90.3%	92.1%	90.8%	87.5%	87.8%	92.9%	97.0%	90.7%	92.0%

入退所実績

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 所		2	3	1		2	1	1	2	5	1	1	19
退 所	2		4		1	3	3	2	3	2	2	1	23

入院等の状況

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
人 数	4	4	10	9	7	9	8	5	5	3	3	4	71
述べ人数	54	80	77	166	172	110	75	83	88	35	42	92	1,074

入所申込者の状況

令和7年3月31日

	男	女	合 計
要 介 護 3	6	38	44
要 介 護 4	10	18	28
要 介 護 5	8	9	17
そ の 他	8	31	39
合 計	32	96	128

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男				3	1	1	1		6
女			2	5	7	16	14	4	48
合 計			2	8	8	17	15	4	54

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 ～ 3 年 未 満	3 年 以 上 ～ 5 年 未 満	5 年 以 上 ～ 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 た り 平 均 在 所 期 間
男	2	3			1	6	3 年 6 ヶ 月
女	17	14	8	6	3	48	2 年 11 ヶ 月
全 体	19	17	8	6	4	54	3 年 0 ヶ 月

事業報告書

令和6年度
うぐいす荘
短期入所生活介護事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『利益を上げる』

（良かった点）

感染症の影響を受けながらも、「利益を上げる」という目標のもと、稼働率向上に向けた営業や新規受け入れを看護・介護が協力しながら積極的に行えました。利用者満足に繋がる余暇支援も各職員が主体的に工夫し、良好なサービス提供が実現できました。

（悪かった点）

人員不足により、洗濯業務や入退所時の衣類管理に時間を取られ、介護職員がサービス担当者会議や送迎等に参加できない状況が発生しました。情報共有には MCS や LINE WORKS を活用しましたが、連絡漏れや忘れ物があり、他事業所へ迷惑をかける事案も発生しました。

稼働状況：稼働率 6 年度＝101.3%・5 年度＝100.3%・4 年度＝88.3%

令和 6 年度の稼働率は 101.3%と過去最高を記録し、前年（100.3%）を上回りました。感染症の影響を考慮し、空床 2 床をロングショート利用に切り替え、短期利用 2 床もロングショートに転用することで、感染症に左右されない安定稼働を実現しました。。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
4 月 26 日 (5 時 14 分)	● 転倒により右上腕骨近位端を骨折。	1. 転倒後、意識レベルと疼痛の確認を実施。右上肢の痛みを訴える。 2. ご家族に事故状況を報告し、お詫び。 3. 病院へ連絡し、受診の調整と送迎を行う。 4. 病院を受診し、右上腕骨近位端骨折と診断。入院となる。
6 月 9 日 (7 時 15 分)	● 原因不明の骨折（転倒の可能性あり）。	2. 倦怠感の訴えを受けて居室を訪問し、左肘周囲の痛みを確認。 3. 利用者を右側臥位で臥床させ、様子を観察。 4. 家人に状況を説明し、お詫びと受診を提案。 5. 家人より「施設で様子を見てほしい」との意向があり、経過観察。 6. 同日退所後、夕方に家人付き添いで病院を受診。左肘頭骨折と診断される。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1				
要 支 援 2				
要 介 護 1		3	3	20%
要 介 護 2	1	3	4	27%
要 介 護 3	1	4	5	33%
要 介 護 4		1	1	7%
要 介 護 5	1	1	2	13%
合 計	3	12	15	100%
平 均	3.3	2.5	2.7	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1													
要 支 援 2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
要 介 護 1	12	12	14	14	11	10	10	13	12	13	11	11	143
要 介 護 2	9	10	10	8	7	9	8	9	10	10	9	6	105
要 介 護 3	8	10	11	12	10	10	11	11	9	8	9	10	119
要 介 護 4	3	4	3	3	3	6	6	6	5	3	4	6	52
要 介 護 5	6	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	3	50
合 計	39	43	43	42	36	40	40	44	41	40	38	37	483

月間利用実績(延べ人数)

定員 12

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	349	350	337	369	354	374	361	368	387	419	379	385	4,432
稼 働 率	96.9%	94.1%	93.6%	99.2%	95.2%	103.9%	97.0%	102.2%	104.0%	112.6%	112.8%	103.5%	101.2%

申込み状況

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平 均
人 数	1	4	1	1	4	1	3	3	2	1	1	2	2

事業報告書

令和6年度
うぐいす荘
通所介護事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『利益を上げる』

（良かった点）

8 月より科学的介護推進体制加算、12 月より個別機能訓練加算（Ⅰ）の算定を開始しました。定期的なケアマネジャーへの営業により新規利用や定期利用の追加につなげることができました。加算取得や節約意識の向上も見られ、職員の意識改革が進みました。長年利用されている方にも新鮮さや楽しさを感じて頂ける取り組み積極的に行われました。

（悪かった点）

長期入院やサービス変更による欠員に対し、振替利用などの即時対応が困難でした。また、個別機能訓練の対象者が施設入所や利用中止となり、現在は 5 名にとどまっています。入浴希望者の増加に伴い、午前中の余暇活動の充実や介護負担の分散が今後の課題です。

稼働状況：稼働率 6 年度＝67.0％・5 年度＝64.0％・4 年度＝74.9％

令和 6 年度の稼働率は 67.0％で、前年度より微増しましたが、依然として目標には届いていません。定員 25 名に対し平均利用者数は 16.7 名、登録者数も 60～63 名にとどまりました。入院・感染症・体調不良によるキャンセルや他サービスへの移行も重なり、実利用者数が当初計画より約 50 名減少しています。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
7 月 10 日	● 食後にアルコー型歩行器を使用して立ち上がる際に後方へ転倒し、背中・腰・臀部を打撲。	1. 職員が転倒状況を確認し、身体状態を確認。 2. 看護職員へ報告し、必要な観察と処置を実施。 3. 倦怠感により入浴を拒否されていた経緯も踏まえ、日々の健康状態に留意して関わるよう職員間で共有。 4. ひとりで立ち上がる利用者に対しては、見守り強化と行動予測に努める。 5. 事故防止検討会にて内容を報告し、再発防止策として注意喚起と行動予測の意識づけを指導。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1		1	1	2%
要 支 援 2	2	13	15	23%
要 介 護 1	2	16	18	28%
要 介 護 2		13	13	20%
要 介 護 3	2	10	12	18%
要 介 護 4		4	4	6%
要 介 護 5	1	1	2	3%
合 計	7	58	65	100%
平 均	2.0	1.7	1.7	

月間利用者数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	61	60	57	61	61	61	61	63	63	57	60	60	725

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	2	3	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	17
要 支 援 2	11	11	12	12	12	13	15	15	16	13	14	14	158
要 介 護 1	18	19	20	20	20	18	17	19	18	17	18	17	221
要 介 護 2	10	10	10	11	9	9	9	9	8	11	12	11	119
要 介 護 3	12	10	9	11	13	11	11	12	12	9	10	11	131
要 介 護 4	4	4	3	3	3	5	5	4	4	3	3	4	45
要 介 護 5	4	3	2	3	3	4	3	3	3	2	2	2	34
合 計	61	60	57	61	61	61	61	63	63	57	60	60	725

月間利用実績(延べ人数)

定員 25

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	26	27	25	27	27	25	27	26	26	24	24	26	310
述 べ 人 数	442	434	425	467	453	446	472	427	451	351	386	440	5,194
稼 働 率	68.0%	64.3%	68.0%	69.2%	67.1%	71.4%	69.9%	65.7%	69.4%	58.5%	64.3%	67.7%	67.0%

曜日別利用人数

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	合 計	平 均
予 定	22.5	21.3	21.5	19.3	21.5	22.5	129	21.4
実 績	18	17.3	15.8	15	16.2	18.1	100	16.7

事業報告書

令和6年度
うぐいす荘
居宅介護支援事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標 : 『利益を上げる』

(良かった点)

職員は積極的に研修や勉強会に参加し、サービスの質の向上に努めました。事業所内でもテーマ別の発表を通じて伝達力を養いました。また、多職種との交流にも意欲的に取り組み、連携体制の強化に貢献しました。さらに、介護支援専門員実務者研修の実習受け入れを通じて、相互の専門性と意識の向上が図れました。

(悪かった点)

契約者数は 90～95 件を維持していたものの、月間実績は約 80 件にとどまり、目標とする収益には達しませんでした。さらに、利用者家族より金品の受け取りに関する苦情があり、ケアマネジャーの交代が必要となる事案が発生しました。また、信頼関係の構築や苦情対応への負担から 1 名が退職し、事業所加算の取得が困難となるなど、体制の見直しと信頼回復への取組が求められます。

稼働状況 : 稼働率 6 年度＝63.1%・5 年度＝65.1%・4 年度＝75.8%

令和 6 年度の稼働率は 63.1%で、前年度(65.1%)からやや低下しました。新規ケースは年間 44 件ありましたが、月間実績は 80 件前後で推移。死亡 13 名、施設入所 17 名、長期入院による中断ケースも多く、稼働率に影響を及ぼしました。今後は在宅支援の継続率向上が求められます。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
8 月 29 日	● ショートステイ利用時に「爪切りがされていない」と家族より指摘。身体確認の不備を問われる。	1. 該当利用者は 8 月 25 日よりショートステイを利用していたことを確認。 2. 入浴時に爪の状態を確認し、同日午後に職員が爪切りを実施。 3. 今後、職員対応が困難な爪の状態については連絡帳に記載し、ご家族に受診を勧めることとした。 4. 日々のケアの質向上と見落とし防止を職員間で共有し、再発防止を図る。

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
10 月 7 日	● 利用者家族より、ケアマネジャーが現金を受け取ったことに対するモラルの問題を指摘。ケアマネの交代を希望。	1. 地域包括支援センター管理者より詳細を確認。 2. 施設長同席のもと、担当ケアマネに聞き取りを実施し指導。 3. 家族より事業所内外問わず交代を希望されたため、管理者が担当を引き継ぐ。 4. 受け取った現金は長男に返金し、謝罪。 5. 長男より、母親に対しても金品を渡さないよう伝えている旨の説明あり。 6. 事業所内で専門職としてのコンプライアンス遵守を徹底するよう職員間で共有。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
介護支援専門員		1	1								1	1
合 計		1	1								1	1

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1	2		2	2%
要 支 援 2	3	11	14	15%
要 介 護 1	8	29	37	40%
要 介 護 2	4	14	18	19%
要 介 護 3	1	12	13	14%
要 介 護 4	4	2	6	6%
要 介 護 5	1	2	3	3%
合 計	23	70	93	100%
平 均	1.8	1.6	1.7	

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数		-4	-1	2	4	2	3	-2	-1	1	1	-2	3

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	26
要 支 援 2	8	8	9	9	9	9	10	9	10	12	11	12	116
要 介 護 1	35	36	37	37	40	41	41	40	39	37	35	33	451
要 介 護 2	15	14	15	13	14	14	14	13	13	17	17	14	173
要 介 護 3	8	9	10	10	10	9	9	10	10	10	12	13	120
要 介 護 4	8	7	5	5	5	6	6	7	7	6	5	5	72
要 介 護 5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	15
合 計	79	79	80	78	81	82	83	82	82	85	82	80	973

月間利用実績(延べ人数)

定員 132

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	90	86	85	88	91	93	96	94	93	94	95	93	1,098
プラン数	79	79	80	78	81	82	83	82	82	85	82	80	973
稼働率	87.8%	91.9%	94.1%	88.6%	89.0%	88.2%	86.5%	87.2%	88.2%	90.4%	86.3%	86.0%	88.6%

※ 常勤 要介護＝40人 要支援＝4人で計算

事業報告書

令和6年度
認知症対応型共同生活介護
グループホーム ゆうゆう

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『その人らしい暮らしの実現』

（良かった点）

入居者との対話の機会が増えたことで、なじみの関係が深まり、自己選択による行動が自然に行えるようになりました。夕食後の時間には、安眠に繋がるような工夫も取り入れ、穏やかな時間を過ごしていただきました。また、訪問看護や訪問歯科の助言により、自然排泄の促進や口腔ケアの定着が見られ、食事を楽しむ姿勢にも良い影響がありました。

（悪かった点）

職員によってケアに対する意識や技術に差があり、入居者の意向をくみ取った支援が十分に共有されていませんでした。認知症理解の不足も背景にあり、今後の課題として次年度の支援目標に位置付けています。また、感染症対応では初動の遅れにより拡大を招く場面があり、危機管理体制の再構築が必要です。

稼働状況：稼働率 6年度＝96.0％・5年度＝97.6％・4年度＝97.1％

令和 6 年度の稼働率は 96.0％で、前年よりわずかに低下しました。入院者が複数重なったことや、要介護度 1～2 のため特養入所に繋がらず、区分変更も困難だったことが要因です。入院内容としては、持病を伴うインフルエンザや高齢による外科手術後の療養などがあり、今後の受け入れ方針について本人・家族と共に検討が必要です。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
6 月 27 日	● ベッドからのずり落ち	1. 午前 1 時 50 分頃、巡回中にベッド下に座っている利用者を発見。「トンと落ちた」との発言あり。 2. 痛みの有無を確認し、「痛くない」との返答。 3. ベッド柵を持っていたき、後方支えにて立位保持、ベッド端座位にてバイタル測定（BP142/85、P56、T36.2、SpO2 98％）。 4. トイレ誘導時も痛みの訴えなく排泄可能。 5. 午前 6 時に施設長へ報告、午前 7 時半に家族へ電話連絡し状況説明。 6. 家族の希望により、公立神崎総合病院整形外科を家族・職員同伴で受診。 7. 医師による触診の結果、レントゲンは実施せず経過観察の指示を受ける。 8. 翌日まで痛みの訴えはなく、その旨を家族に報告。

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
7 月 26 日 ～ 8 月 2 日	● コロナウイルス感 染症発生	1. 7 月 25 日、夜勤明けの職員よりコロナ陽性の報告あり。該当フロア入居者を個室対応とする。 2. 7 月 26 日、入居者 1 名が 37.9 度の発熱。かかりつけ医を受診しコロナ陽性確認。 3. 以後、順次入居者の発熱が続き、かかりつけ医を受診。26 日 2 名、27 日 3 名、28 日 3 名、29 日 1 名、計 9 名が陽性と診断される。 4. コロナ陽性入居者には抗ウイルス薬を処方し、居室療養対応。 5. 該当入居者の家族に状況を説明し、お詫びの連絡を行う。 6. 宝寿会本部へ報告。 7. 神河町健康福祉課および中播磨健康福祉事務所へ報告、疫学調査票を毎日提出。 8. 入居者の健康経過を家族に継続報告。 9. 8 月 2 日、療養解除の旨を家族に連絡。 10. 8 月 6 日、健康福祉課へ終息・最終報告を提出。
1 月 4 日 ～ 1 月 18 日	● インフルエンザ感 染	1. 1 月 4 日 16:30、入居者 1 名が体温 38.8℃の発熱。居室対応とし、カロナール服用。家族へ電話連絡。 2. 同日 22:00、体温 39.1℃。ポカリスエット 100ml 飲用、3 点クーリング実施。 3. 翌 5 日 0:00、体温 38.7℃、ポカリスエット再飲用。4:00、体温 38.8℃、カロナール服用。 4. 8:30、公立神崎総合病院へ連絡。9:45、家族付き添いで休日診療を受診し、インフルエンザ A 型と診断。タミフル処方。 5. 1 月 6 日に 2 名、1 月 7 日に 3 名の陽性者を確認。合計 6 名陽性となり、うち 2 名が入院。 6. 全入居者を居室療養とし、感染対策を実施。家族に状況を随時連絡。 7. 関係各所へ感染症報告を行う。 8. 療養期間は 1 月 13 日で終了。1 月 18 日、入院していた入居者が退院。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
11 月 4 日	● トイレ介助時の職員対応に関する苦情	1. 入居者より、ある男性職員のトイレ介助が「乱暴で恥ずかしい」と打ち明けられる。 2. ご本人の訴えを傾聴し、当該職員の対応について謝罪を行う。 3. 対策検討会を開催し、女性入居者への介助時は、羞恥心への配慮を忘れず、丁寧な言葉かけと優しい動作で対応することを全職員で再確認。 4. 排泄は入居者にとって「一人の時間」であることを尊重し、対応の見直しを図る。 5. 後日、施設長よりご家族に状況を説明し、了承を得る。

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1				
要 支 援 2				
要 介 護 1	1	2	3	17%
要 介 護 2		6	6	33%
要 介 護 3		5	5	28%
要 介 護 4		4	4	22%
要 介 護 5				
合 計	1	17	18	100%
平 均	1.0	2.6	2.6	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1													
要 支 援 2													
要 介 護 1	4	4	3	2	2	2	2	1	1	2	4	3	30
要 介 護 2	6	6	7	8	8	8	8	8	8	8	6	6	87
要 介 護 3	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	4	5	68
要 介 護 4	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4	31
要 介 護 5													
合 計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216

月間利用実績(延べ人数)

定員 18

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	530	558	540	551	518	540	554	517	536	462	466	534	6,306
稼 働 率	98.1%	100.0%	100.0%	98.7%	92.8%	100.0%	99.3%	95.7%	96.1%	82.8%	92.5%	95.7%	96.0%

入退所実績

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 所										1	2		3
退 所										1	2		3

入院等の状況

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
人 数				1	1		1	1	2	2	1	2	11
述べ人数				7	45		3	23	9	28	27	33	175

入所申込者の状況

令和7年3月31日

	男	女	合 計
要 支 援 1			
要 支 援 2			
要 介 護 1	2	2	4
要 介 護 2			
要 介 護 3			
要 介 護 4	1		1
要 介 護 5			
そ の 他			
合 計	3	2	5

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男						1			1
女					8	7	2		17
合 計					8	8	2		18

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1年未満	1年以上 ～ 3年未満	3年以上 ～ 5年未満	5年以上 ～ 10年未満	10年以上	合 計	1人当たり 平 均 在 所 期 間
男	1					1	年 1ヶ月
女	2	8	4	2	1	17	3 年 8ヶ月
全体	3	8	4	2	1	18	3 年 6ヶ月

事業報告書

令和6年度
地域密着型特別養護老人ホーム
うぐいす荘

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『利益を上げる』

（良かった点）

協力医療機関連携加算を新規取得し、月 1 回の会議により情報共有を強化した結果、新規入所の円滑化や入退院相談の対応力が向上しました。節電・節水を意識した行動も職員全体に浸透し、経費削減に寄与しました。新規入所者には外出行事を通じた気分転換を提供し、生活満足度の向上に繋げ、ご家族からも好評を得ました。「思いを叶えるプロジェクト」では、希望を叶える支援が感謝の声として届きました。

（悪かった点）

入院が長期化し、結果的に退所に至るケースも多く、稼働率低下の要因となりました。また、従来型を希望する新規入所希望者が多く、ユニット型の空床を早期に埋めることが困難でした。多職種で連携し観察を継続していたものの、体調変化により入院者数が多くなり、空床が目立つ期間が生じました。今後は空床期間の短縮が課題です。

稼働状況：稼働率 6 年度＝93.1%・5 年度＝90.8%・4 年度＝92.9%

令和 6 年度の稼働率は 93.1%で、前年度の 90.8%から上昇しました。年間稼働率は 92.8%で、入院率は 4%、空床率は 3%でした。入院者数は 12 名、平均入院期間は 31 日、最長は 73 日でした。退所に伴う空床は年間 12 件、平均空床期間は 27 日でした。入院中の空床活用や新規入所受け入れまでの時間短縮が引き続きの改善課題です。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
5 月 21 日	● 自家用車から車椅子への移乗時に膝を捻挫。	1. 事故当時は異常が見られなかったが、後日、膝の熱感と腫脹、痛みの訴えがあり、膝に力が入らない状態となる。 2. 5 月 23 日に受診し、血性浸出液を抜去後、薬剤注入の処置を受ける。 3. 再発防止として、後日スキルアップ研修を開催し、介護職員を対象に移乗介助に関する介護技術研修を実施。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
5 月 21 日	● 自家用車から車椅子への移乗介助が強引で荒っぽかった	1. ご本人およびご家族に謝罪を行う。 2. 該当職員に対し、介助方法の再確認を実施し、今後は複数名で安全な介助を徹底する等指導。 3. 全職員を対象に、介助技術向上のための研修を実施。

要介護度の状況 《平均要介護度》 令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 3	3	3	6	21%
要 介 護 4		12	12	41%
要 介 護 5	1	10	11	38%
合 計	4	25	29	100%
平 均	3.5	4.3	4.2	

月間利用実績(人数) 令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 3	4	6	6	6	5	5	5	5	6	6	6	6	66
要 介 護 4	12	11	10	10	11	11	12	12	12	11	11	13	136
要 介 護 5	13	12	12	12	12	12	12	11	11	11	12	12	142
合 計	29	29	28	28	28	28	29	28	29	28	29	31	344

月間利用実績(延べ人数) 定員 29 (空床ショート含む) 令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	810	817	783	856	845	829	775	802	842	854	775	836	9,824
稼 働 率	93.1%	90.9%	90.0%	95.2%	94.0%	95.3%	86.2%	92.2%	93.7%	95.0%	95.4%	93.0%	92.8%

入退所実績 令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
入 所		2						3	1		1	3	10
退 所	2		1				3		1		1	2	10

入院等の状況 令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
人 数	2	3	3	2	2	2	2	2	3	1	1	1	24
述 べ 人 数	50	43	84	17	54	30	43	31	40	14	19	8	433

入所申込者の状況 令和7年3月31日

	男	女	合 計
要 介 護 3	6	38	44
要 介 護 4	10	18	28
要 介 護 5	8	9	17
そ の 他	8	31	39
合 計	32	96	128

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 5 69	70 5 74	75 5 79	80 5 84	85 5 89	90 5 94	95 5 99	100 5	合計
男			1		2		1		4
女		1	1	1	3	7	10	2	25
合 計		1	2	1	5	7	11	2	29

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 く 3 年 未 満	3 年 以 上 く 5 年 未 満	5 年 以 上 く 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 た り 平 均 在 所 期 間
男	2	1	1			4	1 年 7 ヶ 月
女	7	10	1	6	1	25	3 年 5 ヶ 月
全 体	9	11	2	6	1	29	3 年 2 ヶ 月

事業報告書

令和6年度
特別養護老人ホーム
夢の里

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『その人らしい暮らしの実現』

（良かった点）

感染症対策により実施できなかった月もありましたが、年間を通じて計画された月行事は概ね実施できました。入居者の個別状況に応じた対応を職員間で話し合い、柔軟に対応できたことは大きな成果です。本人の声を大切にしながら、その人らしさを重視した支援を実践できました。

（悪かった点）

年間を通じて事故件数が多く、骨折や裂傷、縫合や入院に至る重大事故も発生しました。防げた可能性のある事故もあり、危機意識や注意深い観察が不十分だった面が否めません。ヒヤリハットの共有や対応策の徹底が不十分であったことも、再発防止の課題として残りました。

稼働状況：稼働率 6 年度＝93.8%・5 年度＝94.6%・4 年度＝93.5%

令和 6 年度の稼働率は 93.8%で、前年度（94.6%）よりやや低下しました。感染症の影響で心身機能が低下し、入院となるケースや、環境変化による事故が重なったことが一因です。退居者は 22 名と多く、医療依存度の高い方の入居希望が増えたことも受け入れ困難の要因です。今後は丁寧なインテーク対応で信頼される施設づくりを目指します。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
4 月 26 日	● 夜間、トイレ後に立ち上がろうとして転倒。 ● 前額部を剥離し、硬膜下血腫で入院。	1. 職員が転倒を確認し、看護職員へ報告。 2. 医療機関を受診し、硬膜下血腫と診断され入院。 3. 職員間で情報共有を実施。 4. トイレ誘導時はその場を離れず見守る方針を再確認。 5. 他者対応が必要な場合は応援職員を呼ぶ体制とする。 6. 車いすの配置を転倒リスクに配慮した位置に見直し。

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
10 月 24 日	● 早朝、居室で転倒し右上腕骨骨頭骨折と診断。 ● 手術は行わず固定と経過観察に。	1. 職員が転倒を確認し、看護職員に連絡。 2. 医療機関を受診し、右上腕骨骨頭骨折と診断。 3. 三角巾とバンドで患部を固定し、経過観察と指示あり。 4. 夜間はズボンを脱いで休む習慣があるため、朝方の着衣時に介助を実施。 5. 朝方はトイレ時や着衣動作に特に見守りを強化。 6. 骨折の回復までは歩行器を使用せず、車いすでの対応に変更。
11 月 9 日	● 点滴スタンドが倒れ、左前額部を打撲。 ● 受診の結果、4 針縫合。	1. 事故発生直後に看護職員が確認し、止血対応を実施。 2. 医療機関を受診し、4 針縫合処置。 3. 職員間で事故内容を共有し、スタンドの立て方・設置場所を統一。 4. 作業時は一つ一つの手順を確認しながら実施することを徹底。
11 月 20 日	● 夜間、ベッドから起きようとして転倒。 ● 左大腿骨大転子部骨折と診断され入院。	1. 職員が転倒を確認し、痛みと可動状況を確認。 2. 翌日医療機関を受診し、左大腿骨大転子部骨折と診断、入院。 3. 退院後の ADL 低下を見据え、状態を観察しながら対応を検討。 4. 精神状態にも配慮し、職員間でグループ的に対応策を共有。 5. 起床・移動時はコール対応を本人に繰り返し説明・指導。
12 月 9 日	● 朝食前、車いすから自力で動こうとして転倒。 ● 左大腿部頸部骨折と診断され入院。	1. 転倒を確認後、看護職員が痛みの有無と部位を確認。 2. 医療機関を受診し、左大腿部頸部骨折と診断、入院。 3. 退院後は下肢機能と精神面の状態を観察し、適切な対応を検討。 4. 普段コールを使用しない傾向があるため、行動前の使用を繰り返し説明・指導。 5. 居室での配膳時は職員が車いすへ移乗介助を行い、食後は速やかにベッドで休んでいただく対応とする。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
看 護 師	1									1		
介 護 員	1	2			2		1			2	4	
そ の 他	1						1	2		2	2	
合 計	3	2			2		2	2		5	6	

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク	1	SMS		職員紹介	1
求 人 紙		紹介会社	2	その他	1

合計	5
----	---

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 3	5	16	21	39%
要 介 護 4	4	18	22	41%
要 介 護 5	2	9	11	20%
合 計	11	43	54	100%
平 均	3.7	3.8	3.8	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 3	29	29	29	29	26	27	28	30	27	27	24	21	326
要 介 護 4	19	17	15	16	16	19	17	17	20	21	20	20	217
要 介 護 5	11	12	14	15	16	15	14	13	13	12	13	12	160
合 計	59	58	58	60	58	61	59	60	60	60	57	53	703

月間利用実績(延べ人数)

定員 60

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	1,767	1,841	1,731	1,828	1,756	1,688	1,695	1,768	1,761	1,628	1,455	1,629	20,547
稼 働 率	98.2%	99.0%	96.2%	98.3%	94.4%	93.8%	91.1%	98.2%	94.7%	87.5%	86.6%	87.6%	93.8%

入退所実績

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
入 所	2			2		2	2	2	1	1	2	1	15
退 所	1			2	1	4	1	1	1	5	3	2	21

入院等の状況

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人 数	1	2	2	2	4	5	6	1	6	8	6	8	51
述べ人数	3	19	39	9	61	87	73	9	92	157	99	97	745

入所申込者の状況

令和7年3月31日

	男	女	合計
要介護3	6	9	15
要介護4	5	14	19
要介護5	1	2	3
その他	1	4	5
合計	13	29	42

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男				1	3	4	3		11
女			3	8	11	11	9	1	43
合計			3	9	14	15	12	1	54

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1年未満	1年以上 ～ 3年未満	3年以上 ～ 5年未満	5年以上 ～ 10年未満	10年以上	合計	1人当たり 平均 在所期間
男	3	3	4	1		11	2年 6ヶ月
女	10	15	12	5	1	43	2年 11ヶ月
全体	13	18	16	6	1	54	2年 10ヶ月

事業報告書

令和6年度
夢の里
短期入所生活介護事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『安心・安全』

（良かった点）

事故時には家族へ迅速に連絡する体制を徹底し、信頼関係の構築に繋がりました。起床時の検温により発熱への早期対応が可能となり、感染症拡大の防止にも寄与しました。季節感ある装飾や行事の掲示は利用者から好評で、LINE WORKS の活用により急な職員不在時も柔軟に対応できました。また、介護ロボ導入により事故予防と職員負担軽減の両面で効果が見られました。

（悪かった点）

予定していた外出行事が減少し、クラブ活動は年間を通じて実施できませんでした。また、服薬ミスなど未然に防げた事故が目立ち、体制の見直しが必要とされました。1 月にはインフルエンザが蔓延し、一部ユニットの受け入れ停止に至りました。職員の有給取得も前年度と大きく変わらず、働きやすい環境づくりの課題が残りました。

稼働状況：稼働率 6 年度＝73.9%・5 年度＝84.6%・4 年度＝80.0%

令和 6 年度の稼働率は 73.9%で、前年度の 84.6%を大きく下回りました。ロングショート希望者の受け入れが困難な状況にあり、車椅子利用者の受診対応を家族が担えないケースが要因となっています。居宅介護支援事業所との連携を強化し、短期利用者数の増加を図る必要があります。また、感染症の流行による受け入れ停止も稼働率低下に影響を与えました。

令和 6 年度 事故の状況

日付	事故内容	対応内容
3 月 14 日	● 夜間、居室で転倒し長座位で発見。左臀部の痛みと腫れあり。	1. ご家族に連絡し、受診を依頼。レントゲン撮影の結果、骨折等の異常は認められず。 2. 転倒後も歩行器での歩行は安定していることを確認。 3. 夜間に活発に動かれる傾向があるため、安心感を与える声かけを行い、見守りを強化。 4. ご家族には、転倒リスクが高いことを丁寧に説明し、理解を得る。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
1 月 14 日	● 受診のため家族が迎えに来た際、利用者の左手首に包帯のようなものが巻かれており、手を縛られているのではないかと家族より指摘あり。	1. 担当介護職員および看護師全員に確認するも、包帯を巻く処置は行っていないことを確認。 2. ご家族に連絡し、包帯処置はしておらず、身体拘束は法律により禁止されており、当施設では行っていないことを説明。 3. 今後は手首等の状態を確認し、不審点があればその場で報告いただくよう依頼。 4. 身体拘束適正化委員会および虐待防止委員会にて当該事例を報告・検討。 5. 2 日後、ご家族より「待合室で利用者本人が何かを巻いたと思う」との連絡があり、誤解であったことを確認。

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1				
要 支 援 2		1	1	2%
要 介 護 1	3	10	13	25%
要 介 護 2	3	8	11	21%
要 介 護 3	3	3	6	12%
要 介 護 4	2	14	16	31%
要 介 護 5		2	2	4%
合 計	11	38	52	94%
平 均	2.4	2.7	2.4	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1													
要 支 援 2		1	1	1	1	1							5
要 介 護 1	5	5	5	6	7	7	7	7	10	9	7	5	80
要 介 護 2	6	6	4	3	5	6	9	9	7	9	10	8	82
要 介 護 3	3	1	1	2	3	3	2	3	3	2	2	2	27
要 介 護 4	4	6	4	4	3	3	2	1	1	1	6	6	41
要 介 護 5	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	14
合 計	20	20	16	18	20	21	21	21	22	22	26	22	249

月間利用実績(延べ人数)

定員 10

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	258	219	216	245	244	214	228	242	236	178	196	222	2,698
稼 働 率	86.0%	70.6%	72.0%	79.0%	78.7%	71.3%	73.5%	80.7%	76.1%	57.4%	70.0%	71.6%	73.9%

申込み状況

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	平 均
人 数	2	4	1	3	3	2	4	2	5	1	5	2	3

事業報告書

令和6年度
夢の里
地域密着型通所介護事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標 : 利用者様の自立を促進する

(良かった点)

職員間で「できること・できないこと」をその都度話し合い、共有することで、過度な介護を避ける意識が定着しました。これにより日常活動やレクリエーションも見直され、体操などを取り入れて楽しめる内容に工夫されました。利用者様の自立を尊重しつつ、楽しく取り組める支援が行えたことは大きな成果です。

(悪かった点)

一部の利用者様では日々の活動にマンネリ化が見られました。今後は、改めて丁寧なコミュニケーションを図り、これまでの経験や趣味・関心を引き出していく必要があります。個別の背景に基づいた作業内容を工夫し、やりがいや達成感を持って参加いただける支援の再構築が求められます。

稼働状況 : 稼働率 6 年度 = 50.0%・5 年度 = 47.0%・4 年度 = 48.3%

令和 6 年度の稼働率は 50.0%と前年をやや上回りました。新規利用者は 7 名で、利用終了者は 8 名(入所 2 名、死去 4 名、入院中 1 名、利用拒否 1 名)でした。既存利用者の利用回数増加が目立つ一方で、自宅での転倒・骨折による入院も多く見られました。営業活動との両立が難しい中、今後は SNS 発信を強化し、新規利用者獲得に努めたいと考えています。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	異動	入職	退職	異動	入職	退職	異動	入職	退職	異動
介 護 員		1									1	
合 計		1									1	

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク		SMS		職員紹介	
求 人 紙		紹介会社		その他	

合計	
----	--

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1		4	4	14%
要 支 援 2		2	2	7%
要 介 護 1	2	9	11	39%
要 介 護 2	2	6	8	29%
要 介 護 3		1	1	4%
要 介 護 4	1	1	2	7%
要 介 護 5				
合 計	5	23	28	100%
平 均	2.0	1.3	1.4	

月間利用者数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	230	241	227	265	251	249	245	246	258	246	191	215	2,864

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	4	4	44
要 支 援 2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	30
要 介 護 1	12	11	11	11	11	11	11	11	11	10	7	7	124
要 介 護 2	7	8	7	7	7	8	10	9	10	10	8	6	97
要 介 護 3												1	1
要 介 護 4	3	3	2	3	2	2	2	2	2	3	5	4	33
要 介 護 5													
合 計	28	28	26	27	26	27	29	28	30	30	26	24	329

月間利用実績(延べ人数)

定員 18

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	26	27	27	27	27	25	27	26	24	24	23	26	309
述べ人数	230	241	227	265	251	249	245	246	258	246	191	215	2,864
稼働率	49.1%	49.6%	46.7%	54.5%	51.6%	55.3%	50.4%	52.6%	59.7%	56.9%	46.1%	45.9%	51.5%

曜日別利用人数

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	合計	平均
予定	13	9	10	10	9	10	61	10.2
実績	13	8	9	9	9	10	58	9.7

事業報告書

令和6年度
夢の里
居宅介護支援事業所

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標 : 選ばれる居宅介護支援事業所

(良かった点)

宝寿の郷・青山苑・夢前包括支援センターから、ほぼ毎月新規利用者の紹介を受けることができ、安定した件数の担当が継続できました。関係機関との良好な連携が保たれ、地域から信頼され、選ばれる事業所としての基盤が整いつつあります。

(悪かった点)

宝寿の郷の利用者数が 20 名を超えたことで、同一建物減算の対象となりました。収益面での影響が出ており、今後はバランスのとれた利用者配置と、広域からの新規獲得に向けた営業活動の強化が必要です。

稼働状況 : 稼働率 6 年度 = 100.2%・5 年度 = 90.5%・4 年度 = 89.7%

令和 6 年度の稼働率は 100.2%と高水準を維持し、前年度（90.5%）から大幅に向上しました。利用者数の安定確保に加え、担当件数の最適化にも努めた結果といえます。引き続き、適正な運営と新規開拓に取り組むことが求められます。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1	4	9	13	11%
要 支 援 2	3	16	19	17%
要 介 護 1	6	27	33	29%
要 介 護 2	7	18	25	22%
要 介 護 3	1	6	7	6%
要 介 護 4	3	11	14	12%
要 介 護 5	1	3	4	3%
合 計	25	90	115	100%
平 均	1.7	1.7	1.7	

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	107	109	107	112	118	106	108	106	108	107	109	115	1,312

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	18	18	16	15	15	13	14	13	13	11	11	13	170
要 支 援 2	10	15	15	19	19	17	15	16	17	19	19	19	200
要 介 護 1	31	30	32	35	35	32	33	32	32	30	29	33	384
要 介 護 2	21	22	22	21	25	22	23	22	20	21	24	25	268
要 介 護 3	8	7	6	6	9	8	9	6	7	6	8	7	87
要 介 護 4	15	14	13	11	11	10	10	13	15	16	14	14	156
要 介 護 5	4	3	3	5	4	4	4	4	4	4	4	4	47
合 計	107	109	107	112	118	106	108	106	108	107	109	115	1312

月間利用実績(延べ人数)

定員 92

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
人 数	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92	1,104
プ ラ ン 数	89	87	87	90	92	86	89	87	88	87	89	92	1,063
稼 働 率	96.7%	94.6%	94.6%	97.8%	100.0%	93.5%	96.7%	94.6%	95.7%	94.6%	96.7%	100.0%	96.3%

※ 常勤 要介護＝35人 要支援＝4人で計算

事業報告書

令和 6 年度
定期巡回 夢の里

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標

（良かった点）

開設準備期間を十分に確保できたことで、サービス開始前に利用者一人ひとりへ丁寧に説明を行い、定期巡回サービスの内容を理解・納得して利用いただくことができました。この過程で利用者との信頼関係が深まり、個々のニーズに応じた質の高いサービス提供が実現しました。また、準備段階での丁寧な関係構築が、その後の安定したサービス運営に繋がっています。

（悪かった点）

当初予定していた利用者の一部が、要支援状態や入院等により利用できなくなるなど、予期せぬ事態が発生しました。また、ケアマネジャーの定期巡回サービスに対する理解が十分でなく、利用促進の妨げとなっている現状も課題です。今後は、関係機関との連携強化や研修・説明会の開催を通じてサービス理解を広め、在宅介護ニーズに応える体制づくりを進めていく必要があります。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1				
要 支 援 2				
要 介 護 1	2	3	5	24%
要 介 護 2	3	6	9	43%
要 介 護 3	2	4	6	29%
要 介 護 4		1	1	5%
要 介 護 5				
合 計	7	14	21	100%
平 均	2.0	2.2	2.1	

月間利用者数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	3	3	6	8	9	10	11	12	14	17	18	21	132

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1													
要 支 援 2													
要 介 護 1			2	3	3	4	4	4	4	4	4	6	38
要 介 護 2	2	2	2	2	3	3	3	4	6	7	8	9	51
要 介 護 3	1	1	2	2	2	2	3	3	3	5	5	5	34
要 介 護 4				1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
要 介 護 5													
合 計	3	3	6	8	9	10	11	12	14	17	18	21	132

事業報告書

令和6年度
地域密着型特別養護老人ホーム
夢の里

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：「安心・安全」

（良かった点）

ご家族への定期的な近況報告を継続し、看取りにおいてもご家族の思いに寄り添った支援が行えました。入居者一人ひとりに合わせた居室環境の整備や、月行事・クラブ活動の実施を通して、生活の楽しみや充実感を提供できました。体調変化への気づきも早く、迅速な対応が図られました。

（悪かった点）

BCP（業務継続計画）の周知や満足度調査の実施ができませんでした。また、報告・連絡・相談において、伝える側と受ける側の捉え方に差があり、情報伝達の課題が浮き彫りとなりました。感染対応解除後は清掃の徹底がやや緩み、改善の余地が残る点が反省点です。

稼働状況：稼働率 6年度＝93.1％・5年度＝94.6％・4年度＝93.5％

令和 6 年度の稼働率は 93.1％で、前年度と比較してやや減少しました。立地や利用料設定の影響で入所希望者が限られる状況にあり、施設の魅力や介護の質、職員との関わりを積極的に発信していく必要があります。精神的に不安定な方の入所が増えているため、センサーの活用や早期受診を通じた事故防止・入院抑制にも取り組んでいます。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
12 月 29 日	● 意識レベル低下のため車椅子で移動中、バランスを崩して車椅子ごと後方へ転倒。	1. すぐに居室へ誘導し臥床。 2. バイタル測定（BP108/52、P90）を実施し、頭部を冷却。 3. 救急相談窓口連絡し、脳外科受診を勧められる。 4. 救急要請を行い、加古川中央病院が受け入れ可能であったため搬送。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
介 護 員		2									2	
合 計		2									2	

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 3	1	4	5	25%
要 介 護 4	4	9	13	65%
要 介 護 5		2	2	10%
合 計	5	15	20	100%
平 均	3.8	3.9	3.9	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 3	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	5	6	50
要 介 護 4	9	10	11	11	12	12	14	14	15	15	13	13	149
要 介 護 5	7	7	6	5	4	4	2	2	2	2	2	2	45
合 計	20	21	21	20	19	20	20	20	21	21	20	21	244

月間利用実績(延べ人数)

定員 20

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	560	576	564	568	584	588	602	600	572	520	496	566	6,796
稼 働 率	93.3%	92.9%	94.0%	91.6%	94.2%	98.0%	97.1%	100.0%	92.3%	83.9%	88.6%	91.3%	93.1%

入退所実績

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
入 所	2	1	1		1	1	2		1	1	1	2	13
退 所		1	1	2		2			1	2	1	1	11

入院等の状況

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
人 数	1	1	2	3					4	3	3	2	19
述 べ 人 数	10	31	32	33					34	76	40	15	271

入所申込者の状況

令和6年3月31日

*地域密着型特養のみの申込者はなし。従来型特養と両方申し込む方については特養入所申込者の状況を参照。

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男			1	3	1				5
女	1	1		4	4	3	1	1	15
合 計	1	1	1	7	5	3	1	1	20

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 ～ 3 年 未 満	3 年 以 上 ～ 5 年 未 満	5 年 以 上 ～ 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 たり 平 均 在 所 期 間
男	3	1	1			5	1 年 3 ヶ 月
女	8	5		2		15	1 年 8 ヶ 月
全 体	11	6	1	2		20	1 年 7 ヶ 月

事業報告書

令和6年度
ケアハウス青山苑

社会福祉法人 宝寿会

令和6年度 事業総括

事業目標：理想の終の棲家へ

（良かった点）

看取り対応においては、職員全員で連携し、ご本人・ご家族と最期の時間を穏やかに過ごせるよう支援を行いました。この取り組みはご家族から高く評価されており、温かな環境づくりの成果といえます。今後も改善を重ねながら、より安心できる終末期ケアを提供してまいります。

（悪かった点）

看取り対応において、医療機関や訪問看護との情報共有・連携が一部不十分な場面がありました。他事業との連携体制を強化し、スムーズな協働体制を構築することが、今後の大きな課題となります。

稼働状況：稼働率 6年度＝91.6％・5年度＝91.9％・4年度＝90.3％

令和6年度の稼働率は91.6％と安定しており、前年度と同水準を維持しました。入居者の安定確保に努め、問い合わせや申込に対しては丁寧なフォローを実施しています。今後もご本人とご家族に選ばれる施設づくりに向け、きめ細やかな対応を継続していきます。

令和6年度 事故の状況

日付	事故内容	対応内容
5月17日	● 浴室にて入居者同士の口論から暴行が発生し、陰部を裂傷し出血が止まらなくなる	1. 職員が状況を確認し、直ちに救急車を要請。 2. 救急隊の判断により、傷害事件として警察へ通報。 3. 救急外来にて処置を受けた後、帰苑。 4. 今後の再発防止として、浴室の使用時間を調整。 5. 相談援助内容を見直し。 6. 後日、当事者双方及びその家族を交え施設で話し合いを行い、和解に至る。
5月17日	● 心中（姫路港に車いすが放置され、通行人が警察へ通報。捜索の結果、水深11mの車中より夫妻を発見し死亡確認）	1. 警察が施設居室内を確認し、遺書とみられるノートを発見。 2. ご家族へ連絡を行う。 3. 貴重品確認時には職員が立ち会う。 4. 相談・苦情の受付体制を見直し、職員間の情報共有を強化。 5. 再発防止のため、スタッフ担当制を導入。

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
5月20日	● 転倒・誤嚥	1. 朝食前に居室を訪問した際、顔色不良で転倒状態を発見し救急車を要請。 2. 救急隊到着後、身体の硬直が確認されたため警察に通報し、検死となる。 3. CT 検査の結果、誤嚥による窒息が判明し、事件性はないと判断され帰苑。 4. 職員の危険予測能力の不足が課題とされ、今後に向けて勉強会を実施。

令和6年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
4月13日	● 職員配置に関するご指摘 「予定より少ない人数でサービス提供をしているのではないか」との問い合わせ	1. 当年度の人員配置計画を説明し、配置基準を満たしていることを説明。 2. “利用者の安心感を高める”観点から、今後のシフト掲示方法を見直すことで同意を得た。
6月6日	● 通院付き添い時の対応 体調不良者への初期対応が遅かったとのご家族からの苦情	1. 同行職員・看護職による経過説明と謝罪を実施。 2. 付き添いマニュアルを改訂し、当該職員を含む全職員へ周知徹底。
1月29日	● 配膳方法に関する苦情	1. 当該職員へ指導し、本人・ご家族へ謝罪。 2. 配膳マニュアル(温度管理・声掛け手順)を再確認し、全体研修を実施。
1月29日	● 職員の不審行動	1. 事実確認後、該当職員の訪室を当面控え、利用者本人へ謝罪。 2. 行動記録の偶発チェック体制を強化。
1月29日	● 視覚障がい利用者への対応不備	1. 不適切な声掛け態度を謝罪。 2. 視覚障がい者支援の基本接遇を再研修し、チェックリストを導入。
1月29日	● 職員の態度不良	1. 関係職員に対し接遇改善指導を実施し、本人・ご家族へ謝罪。 2. 定期的なロールプレイ研修を計画。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
介 護 員				1						1		
調 理 員		2		1			2	1		3	3	
事 務 員	1		1							1		1
合 計	1	2	1	2			2	1		5	3	1

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク	4	SMS			
求 人 紙		紹介会社	1	その他	

合計

5

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
自 立	8	6	14	15%
要 支 援 1	2	8	10	11%
要 支 援 2	6	11	17	18%
要 介 護 1	7	18	25	27%
要 介 護 2	5	12	17	18%
要 介 護 3	3	4	7	7%
要 介 護 4	1	2	3	3%
要 介 護 5	1		1	1%
合 計	33	61	94	100%
平 均	1.2	1.1	1.1	

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	90	93	90	90	90	90	91	93	93	94	94	94	1,102
利用増	3			4		2	6			3	1	1	20
利用減		3	2	2	2	3		1	1	1	1		16

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
自 立	16	16	16	17	18	17	19	19	19	19	20	20	216
要 支 援 1	16	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	205
要 支 援 2	13	13	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	153
要 介 護 1	22	23	22	22	22	22	23	24	25	25	25	25	280
要 介 護 2	13	13	13	13	12	12	10	10	9	10	10	10	135
要 介 護 3	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
要 介 護 4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	38
要 介 護 5								1	1	1			3
合 計	90	93	90	90	90	90	91	93	93	94	94	94	1,102

月間利用実績(延べ人数)

定員 100

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述べ人数	2,760	2,845	2,649	2,802	2,761	2,662	2,856	2,764	2,883	2,914	2,622	2,914	33,432
稼働率	92.0%	91.8%	88.3%	90.4%	89.1%	88.7%	92.1%	92.1%	93.0%	94.0%	93.6%	94.0%	91.6%

部屋別利用実績

令和6年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
部屋	2人	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	1人	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	912
部屋数		88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	88	1,056
2人部屋	2人	12	12	10	10	10	10	12	12	12	14	14	14	142
	1人	4	5	5	4	6	6	5	6	5	5	5	5	61
1人部屋		74	76	75	76	74	74	74	75	76	75	75	75	899
居室人数		90	93	90	90	90	90	91	93	93	94	94	94	1,102

事業報告書

令和6年度
デイサービス テラス青山

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『シニアフィットネス』

（良かった点）

「〇〇を 20 回する」「握力 30kg 以上」など、目標を数値で設定できる利用者が増え、主体的に機能訓練へ取り組む姿勢が定着してきました。要介護者に対しては、起居・排泄動作の安定を目標に、紙パンツ使用者もトイレ誘導を継続実施し、自立支援を図ることができました。

（悪かった点）

新しい機能訓練メニューの導入が進まず、前年からの内容をそのまま継続する形となりました。その結果、利用者の一部には訓練内容へのマンネリ感が見られ、意欲の低下に繋がる場面もありました。今後は創意工夫により、新たな刺激を提供できる訓練環境の整備が求められます。

稼働状況：稼働率 6 年度＝85.1%・5 年度＝61.7%・4 年度＝86.8%

令和 6 年度の稼働率は 85.1%で、前年度（61.7%）から大幅に回復しました。これは新規利用者の増加と継続利用の定着によるものです。令和 4 年度（86.8%）に近づく結果となっており、今後は更なる稼働率の安定化と満足度向上を目指して取り組んでいきます。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
3 月 7 日	● 椅子からの立ち上がりの際にふらついて転倒。	1. 管理者よりご家族へ状況を報告。 2. LINE WORKS にて職員間で情報共有。 3. 歩行状態などに変化がないか、経過観察への協力を職員に依頼。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	異動	入職	退職	異動	入職	退職	異動	入職	退職	異動
介護職員	1	1	1							1	1	1
合 計	1	1	1							1	1	1

採用の状況

令和6年度

区 分	人数	区 分	人数	区 分	人数
ハローワーク	1	SMS		職員紹介	
求 人 紙		紹介会社		その他	

合計

1

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1	3	15	18	27%
要 支 援 2	14	9	23	34%
要 介 護 1	3	13	16	24%
要 介 護 2		6	6	9%
要 介 護 3	1	2	3	4%
要 介 護 4		1	1	1%
要 介 護 5	1			
合 計	22	46	67	100%
平 均	0.8	1.0	0.8	

月間利用者数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	55	52	52	50	50	55	57	57	58	53	59	58	656

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	22	20	19	17	17	18	19	18	18	16	17	17	218
要 支 援 2	11	10	10	9	10	13	13	14	12	13	16	14	145
要 介 護 1	14	16	15	14	13	13	14	14	16	14	15	16	174
要 介 護 2	4	3	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	66
要 介 護 3	3	2	2	3	3	4	4	4	4	2	3	3	37
要 介 護 4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要 介 護 5									1	1	1	1	4
合 計	55	52	52	50	50	55	57	57	58	53	59	58	656

月間利用実績(延べ人数)

定員 20

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼働日	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
述べ人数	385	390	354	384	364	372	397	358	342	317	332	360	4,355
稼働率	87.5%	84.8%	88.5%	83.5%	82.7%	88.6%	86.3%	85.2%	85.5%	79.3%	83.0%	85.7%	85.1%

曜日別利用人数

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	合 計	平 均
予 定	20	20	20	20	20	休	100	20.0
実 績	20	19	20	19	18	休	96	19.2

事業報告書

令和6年度
青山苑
ヘルパーステーション

社会福祉法人 宝寿会

令和6年度 事業総括

事業目標：『想いに寄り添うサービスを』

（良かった点）

サービス開始時に不安を抱いていた利用者様から、「入ってもらって本当に良かった」とのお言葉を頂き、信頼関係を築くことができました。日々の訪問の中で体調や気持ちの変化にも気づき、利用者の安心につながる丁寧な支援を継続できたことは大きな成果でした。

（悪かった点）

「寄り添う」という言葉の捉え方にスタッフ間で差があり、一部でサービスの範囲を超えた対応が見られました。結果としてサービス内容にバラつきが生じたため、対応の統一と「寄り添い」の定義の再確認が今後の課題です。

稼働状況：稼働率 6年度＝67.5%・5年度＝77.9%・4年度＝61.7%

令和6年度の稼働率は67.5%で、前年度（77.9%）から減少しました。これは一部利用者の入院・終了が重なった影響もありました。前年よりは下がったものの、令和4年度の61.7%と比べると高い水準であり、安定した稼働に向けて引き続き支援体制の見直しと利用者獲得に取り組めます。

令和6年度 事故の状況

日付	事故内容	対応内容
11月21日	● 入浴時にシャワーの冷水がかかる	1. 事故発生を受け、シャワー使用前には必ずヘルパーが手で温度を確認するよう徹底を指示。 2. 全職員に対して、再発防止のための注意喚起とマニュアル確認を実施。
3月11日	● シャワー時にステンレス板に足を取られ転倒	1. 事故状況を確認し、職員間で情報を共有。 2. 当該ステンレス板が動かないようにしっかりと固定。 3. 浴室内の安全点検を実施し、他の危険箇所についても確認と対策を行う。

令和6年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
3 月 31 日	● ヘルパーサービスが抜けてしまい苦情	1. 状況を確認し、利用者およびご家族に謝罪を行う。 2. スタッフで対応していた入浴サービスについて、登録ヘルパーによる対応へと調整を行った。 3. サービス提供体制を見直し、業務の抜けや漏れが起こらないよう職員間の情報共有体制を強化した。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
登録ヘルパー				1	1					1	1	
合 計				1	1					1	1	

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク		SMS			
求 人 紙		紹介会社		その他	1

合計	1
----	---

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1	1	4	5	10%
要 支 援 2	6	8	14	27%
要 介 護 1	4	16	21	40%
要 介 護 2	1	6	7	13%
要 介 護 3	1	1	2	4%
要 介 護 4	1	1	2	4%
要 介 護 5	1		1	2%
合 計	15	36	52	100%
平 均	1.4	1.1	1.2	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	10	9	8	7	7	6	7	7	6	6	6	5	84
要 支 援 2	11	11	8	9	10	12	11	10	13	13	13	14	135
要 介 護 1	23	25	23	22	22	19	21	22	23	23	23	21	267
要 介 護 2	11	12	12	12	11	11	11	10	9	9	8	7	123
要 介 護 3	4	4	3	4	4	3	2	2	2	2	2	2	34
要 介 護 4	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	30
要 介 護 5							1	1	1	1	1	1	6
合 計	63	65	57	57	56	53	55	54	56	56	55	52	679

月間利用実績(延べ人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
勤務時間数	1078	1086	1003	976	970	880	922	913	913	933	840	879	11,393
サービス提供時間	770	781	693	669	678	572	609	604	607	628	537	576	7,724
稼働率	71.4%	71.9%	69.1%	68.5%	69.9%	65.0%	66.1%	66.2%	66.5%	67.3%	63.9%	65.5%	67.8%

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	63	65	57	57	56	53	55	54	56	56	55	52	679
利用増	3		2	1	2	4		3		1			16
利用減	1	8	2	2	5	2	1	1		2		3	27

事業報告書

令和6年度
サービス付き高齢者向け住宅
宝寿の郷

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『利用者に選ばれるサ高住』

（良かった点）

「選ばれるサ高住を目指す」という目標のもと、スタッフの意識が高まりました。老人ホーム検索サイト「みんなの介護」に登録したことで施設の認知度が向上し、約 50 件の問い合わせがありました。実際の入居は 3 件に留まりましたが、見学希望者もあり、情報発信の効果が感じられました。

（悪かった点）

開設から 8 年が経過し、入居者の介護度が高くなり、現在は車椅子や歩行器を使用する方が半数以上を占めています。そのため、当初目指していた「自立した生活を送りながら地域とつながる、活動的なサ高住（長屋）」の姿とはかけ離れた状態になってきています。また、計画的な入居促進が十分に行えず、稼働率にも伸びしろがある状況です。今後は、改めて理想とするサ高住の姿を見直し、まずは満床を目指した取り組みが必要です。

稼働状況：稼働率 6 年度＝80.8%・5 年度＝76.7%・4 年度＝77.2%

令和 6 年度の稼働率は 80.8%と、前年の 76.7%からやや上昇しましたが、依然として満床には至っていません。施設の魅力や特色を再整理し、入居促進に向けた戦略を再構築する必要があります。今後は、理想とする住まい像を明確にし、継続的な広報と受け入れ体制の強化を図ります。

令和 6 年度 事故の状況

日付	事故内容	対応内容
12 月 30 日	● 自室で転倒し、右大腿骨骨折。	1. 本人の状態を確認し、起き上がれず右大腿部に強い痛みを訴える。 2. ご家族に状況を連絡。 3. 救急車を要請し、救急搬送。 4. 受診の結果、右大腿骨骨折と診断され、そのまま入院となる。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
11 月 27 日	● 入居者より自室の貯金箱から約 3 万円を盗られたとの訴え。特定の男性スタッフを一方的に疑い、他入居者にも吹聴したことで混乱が拡大。	1. 本人より詳細な話を傾聴し、ご家族に事実を報告。 2. 施設長より法人本部に連絡し、内部調査チームを立ち上げ、本人・ご家族・スタッフへの聞き取り調査を実施。 3. スタッフ・家族ともに貯金箱の存在や金額について把握していなかったことが判明。 4. 入居時に施設長が鍵を渡したつもりで未交付であったことが発覚し、施設長より謝罪。 5. 部屋内には見守りカメラはあるが録画機能がなく、状況の確認は不可能。 6. 現金も発見されず、犯人の特定には至らず。 7. 調査後、調査で得られた情報を本人・ご家族へ共有する場を設けたが、本人の納得は得られず。 8. 対策として、廊下側に録画機能付きのカメラを設置し、出入りの確認が可能に。 9. 今後、入居時に鍵の確実な受け渡しを徹底し、重要事項説明書にて金品管理や鍵の取り扱いについて改めて明記。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
用 務 員				1						1		
調 理 員		1		1			6	5		7	6	
合 計		1		2			6	5		8	6	

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク	2	SMS			
求 人 紙		紹介会社	1	その他	5

合計

8

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
自 立				
要 支 援 1		2	2	5%
要 支 援 2		2	2	5%
要 介 護 1	3	6	9	23%
要 介 護 2	1	9	10	25%
要 介 護 3	2	5	7	18%
要 介 護 4	1	7	8	20%
要 介 護 5	1	1	2	5%
合 計	8	32	40	100%
平 均	2.5	2.3	2.3	

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	39	38	37	38	38	40	39	40	41	38	38	40	466
利用増			1	1	1	2		1	4			2	12
利用減		1	2		1		1		3	3			11

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
自 立													
要 支 援 1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	2	21
要 支 援 2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	17
要 介 護 1	11	11	11	11	11	11	10	12	12	11	10	10	131
要 介 護 2	12	12	11	11	10	12	11	9	7	7	8	9	119
要 介 護 3	7	7	7	7	7	7	7	6	6	7	7	7	82
要 介 護 4	5	4	4	4	5	5	6	8	10	9	9	9	78
要 介 護 5	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	18
合 計	39	38	37	38	38	40	39	40	41	38	38	40	466

月間利用実績(延べ人数)

定員 48

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	1,114	1,151	1,161	1,150	1,125	1,179	1,188	1,189	1,205	1,134	1,064	1,204	13,864
稼 働 率	77.4%	77.4%	80.6%	77.3%	75.6%	81.9%	79.8%	82.6%	81.0%	76.2%	79.2%	80.9%	79.1%

部屋別利用実績

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
部屋	2人	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
	1人	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
部 屋 数		42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	504
2人部屋	2人	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	1人	3	3	3	3	3	3	3	4	2	2	3	35
1 人 部 屋		32	31	30	31	31	33	32	33	32	32	33	383
居 室 人 数		39	38	37	38	38	40	39	40	41	38	38	466

事業報告書

令和6年度
デイサービスセンター
宝寿やすらぎ

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『地域に必要とされるデイサービス』

（良かった点）

理学療法士による「地域いきいき体操」など地域活動に参加し、デイサービスの認知度向上に努めました。チラシを作成して地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を訪問し、新規利用者の獲得につなげることができました。1名の利用開始が次の紹介につながるなど、確かな成果が得られました。

（悪かった点）

地域活動には参加できたものの、単発的な関わりにとどまり、継続的な関係構築には至りませんでした。定期的な参加ができていれば、施設の特徴やリハビリ特化型の魅力をより伝えることができたと考えます。地域との継続的な接点づくりが今後の課題です。

稼働状況：稼働率 6年度＝79.2%・5年度＝79.2%・4年度＝77.1%

令和6年度の稼働率は79.2%で、前年と同水準を維持しました。令和4年度（77.1%）からは微増となっており、安定した利用者数を確保できています。今後は、地域との連携を強化し、施設の魅力を発信しながらさらなる稼働率向上を目指していきます。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

日付	苦情内容	対応内容
8月8日	● 家人から「休む」との連絡があったが、本人から利用希望の電話があり、家人が把握していないまま利用となった。	1. 職員間で会議を開催し、状況の共有を行う。 2. 今後は、本人からの連絡ではなく、家人からの連絡を優先することを徹底。 3. 利用有無の確認を複数名で行うなど、再発防止策を協議。

登録者の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1	1	2	3	8%
要 支 援 2	2	3	5	14%
要 介 護 1	2	3	5	14%
要 介 護 2	2	8	10	28%
要 介 護 3	2	5	7	19%
要 介 護 4	1	4	5	14%
要 介 護 5		1	1	3%
合 計	10	26	36	100%
平 均	1.7	2.2	2.1	

月間利用者数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利 用 者 数	33	33	33	34	34	32	32	33	36	36	34	34	404

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	28
要 支 援 2	4	4	4	4	4	3	2	3	3	4	4	4	43
要 介 護 1	8	8	8	8	8	8	8	9	8	6	6	5	90
要 介 護 2	10	10	9	9	8	7	6	6	6	8	8	10	97
要 介 護 3	4	5	5	5	6	6	6	6	7	7	7	6	70
要 介 護 4	5	4	5	6	6	6	7	7	8	7	5	5	71
要 介 護 5										1	1	1	3
合 計	33	33	33	34	34	32	31	33	35	36	34	34	402

月間利用実績(延べ人数)

定員 20

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
述 べ 人 数	351	379	327	363	330	330	357	332	327	313	315	330	4,054
稼 働 率	79.8%	82.4%	81.8%	78.9%	75.0%	78.6%	77.6%	79.0%	81.8%	78.3%	78.8%	78.6%	79.2%

曜日別利用人数

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	合 計	平 均
予 定	20	15	16	16	18		85	17.0
実 績	90	56	59	58	67		330	66.0

事業報告書

令和6年度
ヘルパーステーション
やすらぎ

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『安心・安全な介護』

（良かった点）

1 年を通して事故なくサービスを提供できたことは大きな成果です。スタッフ会議で利用者の状態を共有し、変化があれば速やかに責任者がご家族やケアマネ、主治医へ連絡し、迅速かつ落ち着いた対応が実現しました。スタッフ全員が同じ意識を持ち、統一した対応に努めたことが、安心・安全な介護につながりました。

（悪かった点）

重大な問題はなかったものの、今後はスタッフ一人ひとりがその場の状況を正確に把握し、気づきや判断力、応用力をさらに養う必要があります。また、現在はサ高住入居者のみに対応しており、同一建物減算が 12%となっています。今後はサ高住外へのサービス提供も視野に入れ、利用対象の拡大に取り組んでいくことが課題です。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
介 護 員	1	2		2	1		3	1		6	4	
合 計	1	2		2	1		3	1		6	4	

採用の状況

令和6年度

区 分	人数	区 分	人数	区 分	人数
ハローワーク	2	SMS			
求 人 紙		紹介会社	3	その他	1

合計

6

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1		2	2	5%
要 支 援 2		2	2	3%
要 介 護 1	3	6	9	34%
要 介 護 2	1	9	10	29%
要 介 護 3	2	4	7	13%
要 介 護 4	1	7	8	13%
要 介 護 5		1	1	3%
合 計	7	31	39	100%
平 均	2.1	2.3	2.3	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	21
要 支 援 2	1	1	1	1				1	1	1	2	2	11
要 介 護 1	11	11	11	11	11	13	13	12	12	12	11	9	137
要 介 護 2	12	12	12	11	11	9	8	8	7	7	7	10	114
要 介 護 3	6	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	7	92
要 介 護 4	4	3	4	4	4	4	5	6	7	8	7	8	64
要 介 護 5	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	18
合 計	37	37	38	38	38	38	38	39	38	39	38	39	457

月間利用実績(延べ人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
勤務時間数	1122	1027	1043	1019	1158	1048	1115	1001	1115	1055	994	970	12,667
サービス提供時間	914	864	869	976	1,000	1,035	1,067	1,030	1,122	1,063	1,045	1,090	12,075
稼働率	81.5%	84.1%	83.3%	95.8%	86.4%	98.8%	95.7%	102.9%	100.6%	100.8%	105.1%	112.4%	95.3%

月間利用者増減数

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利用者数	37	37	38	38	38	38	38	39	38	39	38	39	457
利用増		1	1	1	1	2		2	1	3	1	2	15
利用減		1		1	1	2		1	2	2	2	1	13

事業報告書

令和6年度
特別養護老人ホーム
四季の郷

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『安定した経営を目指す』

（良かった点）

令和 5 年 5 月 1 日から 10 月 31 日までの行政処分期間中は新規入居者の受け入れが停止されましたが、退去者は 3 名にとどまり、大きな離脱を防ぐことができました。厳しい状況下でも既存入居者やご家族との信頼関係を維持し、施設としての体制を保てたことは大きな成果であり、今後の安定経営への土台となりました。

（悪かった点）

人材確保と新規入居者の獲得が依然として困難な状況が続いています。人手不足は職員の負担増にもつながっており、サービスの安定提供にも影響を与えかねません。また、2 ユニット目の開設を予定しているものの、体制整備が進まず、開設には至っていない点が課題として残りました。

稼働状況：稼働率 6 年度＝71.0％・5 年度＝46.3％・4 年度＝21.8％

令和 6 年度の稼働率は 71.0％で、前年度（46.3％）から大幅に改善しました。3 月に 15 名の一括入居を受け入れた令和 5 年度末の流れを引き継ぎ、年度初めは 65 名でスタート。行政処分期間中を含め、新規入居者 12 名、退去者 11 名となり、年度末時点では入居者 66 名となりました。目標の 70 名には届かず、引き続き安定入居者数の確保が課題です。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
11 月 30 日 (17:05)	● ホールで入居者の声を聞き、駆け付けたところ、椅子の左側で倒れているのを発見。	1. 職員を呼び、バイタル測定を実施。 2. 看護師に連絡し、左顎下・左頸部に切傷、右頭頂部に約 5～6 cm の腫脹を確認。 3. 頭部動脈瘤の既往歴があるため、病院受診を決定。 4. 頭部 CT 検査を実施。頭部の痛みの訴えはあるが、発語等に異常はなく、普段と変わらない様子で経過観察。

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
12 月 14 日 (4:00)	● 夜間、ベッドセンサー反応により対応。興奮状態で居室外まで出て排便。介助中、自身の左腕を強く引っ掻き剥離し出血。	1. 圧迫止血の処置を実施。 2. 看護師へオンコールで連絡。 3. 興奮状態が続いていたため、不穏時処方薬を1錠服用。 4. 縫合が必要と判断し、病院を受診。 5. 左腕に10針以上縫合、ソフラチュールで保護、痛み止め処方される。 6. その後は普段と変わらない様子で経過観察。
1 月 12 日 (8:40)	● 朝食時、隣の入居者のコップが倒れ、本人の右足大腿部にスプーンがかかり熱傷。	1. 熱傷部位を確認し、アイスノンで冷却処置を行う。 2. 病院を受診。 3. 水泡部の洗浄・拭き取り、水泡が剥がれた部位の処置実施。 4. 軟膏塗布後、ガーゼで保護しネットで固定。 5. 処置後、施設に帰所。
3 月 5 日 (22:20)	● 居室内で転倒し、額から出血。	1. 居室より助けを求める声があり訪室。這って扉を開けていた本人を発見、額からの出血確認。 2. 止血困難のためオンコールで看護師を呼び、協力病院へ連絡。抗血小板薬服用中であることを伝える。 3. ステリテープで2ヶ所を保護し、23:30に止血完了。 4. メロリンガーゼで創部を保護し、その夜は様子観察とする。 5. 後日、病院受診。協力病院での対応が難しく、紹介された個人病院にて右額部6針縫合処置。 6. 頭部CT検査は行わず、状態変化があれば検査可能な病院を紹介するとの指示により、引き続き様子観察。

令和6年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
看 護 師	1	1					2	1		3	2	
介 護 員	6	5		5	1		2	7		13	13	
調 理 員					1			3	1		4	1
そ の 他	2	1					2	1		4	2	
合 計	9	7		5	2		6	12	1	20	21	1

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク	3	SNS	1	職員紹介	1
求 人 紙	4	紹介会社	3	その他	8

合計	20
----	----

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 3	4	23	27	40%
要 介 護 4	8	24	32	48%
要 介 護 5	2	6	8	12%
合 計	14	53	67	100%
平 均	3.9	3.7	3.7	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 3	30	28	27	27	26	26	26	25	28	29	29	28	329
要 介 護 4	27	28	29	28	29	28	28	28	30	30	31	32	348
要 介 護 5	9	10	10	10	10	10	10	11	10	10	8	8	116
合 計	66	66	66	65	65	64	64	64	68	69	68	68	793

月間利用実績(延べ人数)

定員 90

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	1,921	2,038	1,927	1,993	1,958	1,904	1,940	1,822	2,030	2,050	1,791	1,969	23,343
稼 働 率	71.1%	73.0%	71.4%	71.4%	70.2%	70.5%	69.5%	67.5%	72.8%	73.5%	71.1%	70.6%	71.1%

入退所実績

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	1							1	6	1	1	2	12
退所			1		1		1	2		2	2	2	11

入院等の状況

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	5	2	3	3	3	2	3	3		4	5	4	37
述べ人数	30	8	35	22	34	16	35	46		41	56	58	381

入所申込者の状況

令和7年3月31日

	男	女	合計
要介護3	4	8	12
要介護4	2	4	6
要介護5	1	2	3
その他			
合計	7	14	21

年齢別構成状況

令和7年3月1日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男		1		2	5	4	2		14
女		1	4	6	14	21	6	2	54
合計		2	4	8	19	25	8	2	68

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1年未満	1年以上 ～ 3年未満	3年以上 ～ 5年未満	5年以上 ～ 10年未満	10年以上	合計	1人当たり 平均 在所期間
男	1	13				14	年 ヶ 月
女	11	43				54	年 ヶ 月
全体	12	56				68	年 ヶ 月

事業報告書

令和6年度
短期入所生活介護
四季の郷

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標 : 『安定した経営を目指す』

（良かった点）

行政処分期間中も継続してご利用いただけたことは大きな成果でした。新規受け入れが停止された状況下でも、既存利用者との信頼関係を維持し、サービスの継続につながった点は、今後の安定運営においても重要な基盤となりました。

（悪かった点）

新規利用者確保のために各事業所への訪問や営業を実施したものの、大幅な稼働率の向上には至りませんでした。利用者の多様なニーズに応えるため、来年度は土日の受け入れ体制を強化し、より柔軟なサービス提供に取り組む必要があります。

稼働状況 : 稼働率 6 年度 = 32.5%・5 年度 = 22.4%・4 年度 = 1.6%

令和 6 年度の稼働率は 32.5%と、前年の 22.4%を上回りましたが、依然として低水準にあります。四季の郷短期入所の認知は徐々に広がっているものの、新規利用者の増加にはつながらなかった 1 年でした。今後は体制を再整備し、土日受け入れの強化や施設の積極的な広報により、選ばれる事業所を目指していきます。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
12 月 31 日 (17:15)	● 移乗介助中に前のめりに転倒し、頭部を床に打つ。	1. 本人の意識状態を確認し、バイタル測定を実施。正常範囲内であったため看護師に連絡。 2. 看護師到着後、右眼瞼に約 2 cm の裂傷と少量出血、軽度の疼痛を確認。 3. 嘔気・眩暈の訴えはなし。患部を清拭・消毒し、ガーゼで保護して応急処置。 4. 念のため病院を受診。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 支 援 1				
要 支 援 2				
要 介 護 1	1	2	3	21%
要 介 護 2	1	4	5	36%
要 介 護 3	1	1	2	14%
要 介 護 4	2	1	3	21%
要 介 護 5	1		1	7%
合 計	6	8	14	100%
平 均	3.2	2.1	2.6	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1													
要 支 援 2													
要 介 護 1	2	2	3	2	2	2	1	3	1		2	3	23
要 介 護 2	3	4	4	8	3	3	2	4	5	5	4	5	50
要 介 護 3	4	5	4	3	5	4	4	5	6	3	2	2	47
要 介 護 4					1	1	1	2	3	4	5	3	20
要 介 護 5	1	1	2	2	2	2	3	3	2	1	1	1	21
合 計	10	12	13	15	13	12	11	17	17	13	14	14	161

月間利用実績(延べ人数)

定員 10

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	61	82	76	117	99	100	93	121	131	100	112	94	1,186
稼 働 率	20.3%	26.5%	25.3%	37.7%	31.9%	33.3%	30.0%	40.3%	42.3%	32.3%	40.0%	30.3%	32.5%

申込み状況

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	平 均
人 数		1	1	1				4	4	2	2	4	2

事業報告書

令和6年度
地域密着型特別養護老人ホーム
漫遊の郷

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『安定した経営を目指す』

（良かった点）

令和 5 年 5 月 1 日から 10 月 31 日までの行政処分期間中は新規入居者の受け入れができませんでしたが、退去者は 3 名に抑えられ、大きな離脱を防ぐことができました。厳しい状況下でも入居者との信頼関係を維持し、体制を崩すことなく乗り越えられたことは、今後の経営安定に向けた前向きな成果といえます。

（悪かった点）

職員確保が難航し、予定していたもう 1 ユニットの開設に至りませんでした。人的体制の整備が整わないことで、入居可能人数が限定され、稼働率にも影響を及ぼしました。今後は、四季の郷のユニット開設状況を参考にしながら、早期の開設に向けた準備と職員確保に注力していく必要があります。

稼働状況：稼働率 6 年度＝54.7%・5 年度＝61.2%・4 年度＝22.6%

令和 6 年度の稼働率は 54.7%で、前年度（61.2%）より低下しました。年度開始時は入居者 18 名、行政処分期間中は 16 名で推移し、分母が小さいことが稼働率の伸び悩みにつながりました。年度中は新規入居 8 名・退去 8 名と横ばいで、3 月末時点の入居者数は 18 名となりました。今後はユニット開設と人員・入居者確保に向け、体制強化を図っていきます。

令和 6 年度 事故の状況

日 付	事 故 内 容	対 応 内 容
1 月 21 日 (11:10)	● トイレ内で転倒し、座り込んでいる状態で発見される。	1. 状況を確認し、本人に痛みの有無を確認。 2. 3 人介助で車椅子に移乗。 3. バイタル測定を実施し、看護師に報告。 4. 念のため病院を受診。頭部 CT 検査にて出血所見なし。 5. 医師より 1～2 ヶ月間の様子観察の指示あり、施設に帰所。

令和 6 年度 苦情の状況

日 付	苦 情 内 容	対 応 内 容
3 月 5 日	● 施設外に利用者の個人情報が出ていたとの苦情。	1. 関係が疑われる職員に聞き取りを行うが、該当する発言等は確認されず。 2. 朝礼・ユニット会議の場で、個人情報保護の重要性について再度周知徹底。 3. 市の担当者に当該件を報告。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
介 護 員				1				3		1	3	
調 理 員									1			1
合 計				1				3	1	1	3	1

採用の状況

令和6年度

区 分	人 数	区 分	人 数	区 分	人 数
ハローワーク		SMS		職員紹介	
求 人 紙		紹介会社		その他	1

合計

1

要介護度の状況 《平均要介護度》

令和7年3月31日

	男	女	合 計	割 合
要 介 護 2	1		1	6%
要 介 護 3	1	6	7	39%
要 介 護 4	1	7	8	44%
要 介 護 5		2	2	11%
合 計	3	15	18	100%
平 均	3.0	3.7	3.6	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 介 護 1													
要 介 護 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要 介 護 3	9	9	7	7	7	7	7	8	7	5	7	7	87
要 介 護 4	7	7	7	6	6	6	6	6	8	8	9	8	84
要 介 護 5	2	2	2	2	2	2	2	4	3	3	2	2	28
合 計	19	19	17	16	16	16	16	19	19	17	19	18	211

月間利用実績(延べ人数)

定員 29

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼 働 日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
述 べ 人 数	503	516	480	496	459	440	468	463	498	464	454	544	5,785
稼 働 率	57.8%	57.4%	55.2%	55.2%	51.1%	50.6%	52.1%	53.2%	55.4%	51.6%	55.9%	60.5%	54.7%

入退所実績

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入 所	1							3	1		3		8
退 所		2	1						1	1			5

入院等の状況

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
人 数	2	2	1		2	2	2	3	3	3	2	1	23
述べ人数	38	28	10		37	40	28	55	31	42	49	14	372

入所申込者の状況

令和7年3月31日

	男	女	合 計
要 介 護 3	7	11	18
要 介 護 4	3	6	9
要 介 護 5	3	3	6
そ の 他			
合 計	13	20	33

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～ 99	100 ～	合計
男						1	2		3
女			1	1	3	6	4		15
合 計			1	1	3	7	6		18

在所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 ～ 3 年 未 満	3 年 以 上 ～ 5 年 未 満	5 年 以 上 ～ 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 た り 平 均 在 所 期 間
男	1	2				3	年 ヶ 月
女	6	9				15	年 ヶ 月
全 体	7	11				18	年 ヶ 月

事業報告書

令和6年度
多機能型事業所 かみかわ倶楽部
A型-春夏秋冬・酒飯店

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『生きがいを持って生活し、社会参加を図る支援の実施』

（良かった点）

事業開始から 5 年目となる本年度、2 名の一般就労に繋がったことは、就労継続支援 A 型事業所としての成果であり、社会参加支援の具体的な実現例となりました。資格取得を目標とした利用者也要件を満たすことができ、意欲の高まりが見られました。定員近い利用者数から減少はあったものの、継続利用者の就労意識は確実に向上しています。

（悪かった点）

年度当初に比べ利用者数が大きく減少し、それに伴い収益増加の目標が計画通りに達成できませんでした。A 型事業では、収益性と利用者数・利用率を精密に連動させた運営が求められます。今後は経営面と支援面のバランスを意識し、持続可能な運営体制の構築が課題となります。

稼働状況：稼働率 6 年度＝42.1%・5 年度＝62.0%・4 年度＝65.3%

令和 6 年度の稼働率は 42.1%と、前年度（62.0%）から大きく減少しました。これは利用者数の減少によるものであり、経営状況と照らし合わせると現在の稼働率は「適正」とも言えます。今後は事業収益の状況を精査しつつ、安定した利用率の維持と利用者確保に努めていく必要があります。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
ス タ ッ フ							1	8		1	8	
合 計							1	8		1	8	

採用の状況

令和6年度

区 分	人数	区 分	人数	区 分	人数
ハローワーク	1	SMS			
求 人 紙		紹介会社		その他	

合計	1
----	---

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
A 型	12	10	10	8	8	8	7	5	5	5	4	4	86

月間利用実績(延べ人数)

定員 10

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼働日	30	31	30	31	31	30	31	30	28	28	27	31	358
述 べ 人 数	169	192	154	157	155	142	121	97	94	89	69	79	1,518
利 用 率	56.3%	61.9%	51.3%	50.6%	50.0%	47.3%	39.0%	32.3%	33.6%	31.8%	25.6%	25.5%	42.4%

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	20 〜 24	25 〜 29	30 〜 34	35 〜 39	40 〜 44	45 〜 49	50 〜 54	55 〜	合計
男									
女		1	2					1	4
合 計		1	2					1	4

通所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 〜 3 年 未 満	3 年 以 上 〜 5 年 未 満	5 年 以 上 〜 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 たり 平 均 在 所 期 間
男							
女	1	1	2				2.4 年
全 体	1	1	2			4	2.4 年

春夏秋冬年間売上 レストラン (単位:万円)

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上高	47	46	42	38	68	56	62	69	60	42	42	50	622
売上原価	22	22	19	18	32	26	29	32	20	13	14	14	261
売上純利益	25	24	23	20	36	30	33	37	40	29	28	36	361

春夏秋冬年間売上 売店 (単位:万円)

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上高	19	20	16	13	15	22	20	30	50	21	19	40	285
売上原価	11	12	9	7	8	13	10	17	25	10	10	17	149
売上純利益	8	8	7	6	7	9	10	13	25	11	9	23	136

酒販店年間売上 (単位:万円)

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上高	13	23	8	9	11	14	8	9	16	7	8	7	133
売上原価	11	19	6	7	9	9	6	7	12	5	6	5	102
売上純利益	2	4	2	2	2	5	2	2	4	2	2	2	31

3部門合計(単位:万円)

令和6年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上純利益合計	35	36	32	28	45	44	45	52	69	42	39	61	528
利用者給与	85	82	72	71	67	65	59	46	46	47	35	37	712
営業利益合計	-50	-46	-40	-43	-22	-21	-14	6	23	-5	4	24	-184

事業報告書

令和6年度
多機能型事業所 かみかわ倶楽部
B型-わかば

社会福祉法人 宝寿会

令和 6 年度 事業総括

事業目標：『利用者社会参加への第一歩としての役割充実』

（良かった点）

事業開始以来 3～4 名で推移していた利用者数について、行政・相談支援事業所への積極的な情報提供と対象者の状況把握に努めた結果、相談支援からの依頼件数が増加しました。新規利用者の多くは障害状況が不安定で引きこもり傾向がありましたが、個別に利用日数や時間を調整することで支援につなげ、社会参加への第一歩となる支援が実現できました。

（悪かった点）

個々の状況に応じて軽作業や A 型業務の補助的な体験も提供してきましたが、従事できる時間や作業量に限りがあるため、工賃実績は前年度を上回ることができませんでした。今後は、委託業務の開拓や業務量の確保・拡大に努めるとともに、作業内容の充実を図ることが課題となります。

稼働状況：稼働率 6 年度＝37.3%・5 年度＝26.0%・4 年度＝11.9%

令和 6 年度の稼働率は 37.3%で、前年度（26.0%）、一昨年度（11.9%）から着実に増加しました。利用者数は増えつつあるものの、障害特性により通所日数が限られるため、稼働率の大幅な向上には至っていません。引き続き小さな積み重ねを大切にし、継続的な稼働率向上を目指します。

令和 6 年度 事故の状況

- ・ 事故はありませんでした。

令和 6 年度 苦情の状況

- ・ 苦情はありませんでした。

職員入退職状況

令和6年度

	常 勤			常 勤 パ ー ト			パ ー ト 他			合 計		
	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動	入職	退職	移動
そ の 他								1			1	
合 計								1			1	

月間利用実績(人数)

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
B 型	4	5	5	5	5	6	6	5	7	6	6	5	65

月間利用実績(延べ人数)

定員 10

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
稼働日	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
述 べ 人 数	81	91	77	91	88	81	92	66	91	81	73	62	974
利 用 率	36.8%	39.6%	38.5%	39.6%	40.0%	38.6%	40.0%	31.4%	45.5%	40.5%	36.5%	29.5%	38.0%

年齢別構成状況

令和7年3月31日

	20 5	25 5	30 5	35 5	40 5	45 5	50 5	55 5	合計
	24	29	34	39	44	49	54		
男		1	1						2
女		1			1	1			3
合 計		2	1		1	1			5

通所期間の状況

令和7年3月31日

	1 年 未 満	1 年 以 上 く 3 年 未 満	3 年 以 上 く 5 年 未 満	5 年 以 上 く 10 年 未 満	10 年 以 上	合 計	1 人 当 た り 平 均 在 所 期 間
男		2				2	1.7 年
女	2		1			3	2.1 年
全 体	2	2	1			5	1.8 年